



小手中魂

合言葉「チーム小手指」とは
情熱・授業力・社会性を持ち、生徒を
第一に考える教師集団のこと



所沢市立小手指中学校 校長 結城 尊弘 令和8年7月1日発行
【生徒数：1学年232名 2学年198名 3学年188名 8組16名 合計634名】

7月1日 全校朝会 校長講話「ほんの少しの予測力」があなたの未来と命を守る

今日は、皆さんの大切な未来と命を守るために必要な「予測する力」について、三つお話しします。

一つ目 多くの事件や事故は「予測」で防ぐことができます。ニュースになる事故やトラブルの多くは、「ほんの少し先を予測する力」があれば、防げたものばかりです。

例えば、自転車事故です。「誰も来ないだろう」と思うのではなく、「人や車が来るかもしれない」と、たった一秒予測するだけで、事故を防げることがあります。SNSのトラブルも同じです。友達の写真を「このくらいなら大丈夫」と軽い気持ちでグループLINEなどに載せた結果、それが拡散し、いじめや不登校、さらには警察が関わる問題にまで発展した事例もあります。「相手はどう思うだろう」



吹奏楽西部発表会

「この後、どんなことが起こるだろう」この一瞬の予測ができれば多くのトラブルは防ぐことができます。

二つ目 日頃から「もしも」を考える習慣をつけること

事件や事故に巻き込まれないために、普段から心がけてほしいことがあります。キーワードは、「もしも(If)」のシミュレーションです。毎日の生活の中に、小さな「もしも」を入れてみてください。

例えば、登下校中「もしも、この角から車が飛び出してきたら。」、スマホを使う時「もしも、この写真や書き込みが世界中に広がったら。」、友達と遊んでいる時「もしも、このふざけ合いで相手がけがをしたら。」、人は想定していない出来事に直面すると、慌ててしまいます。だからこそ、普段から「もしも」を考える習慣をつけることが大切です。この「かもしれない」という警戒心を持っている人は、危険な場所や危険な状況に自然と近づかなくなります。ぜひ「かもしれない行動」を習慣にしてください。

三つ目 それでも不測の事態に直面した時、自分の命を守ること

どんなに気を付けていても、自然災害や不審者、SNSによる犯罪、交通事故、そして人間関係のトラブルやいじめなど、予測しきれない出来事は起こります。そんな時、自分の命を守るために覚えておいてほしいことが三つあります。

(1) 「かつこ悪さ」を捨てて、すぐに逃げること

「これくらい大丈夫。」「みんな動いていないから。」そんな気持ちや周りに合わせようとする空気に流されないでください。危険を感じたら、自分の判断で一秒でも早く安全な場所へ逃げる。そして、助けを求める勇気を持つことです。

(2) 自分の直感を信じること

「何かおかしい。」「いつもと違う。」その直感は、自分の命を守る大切なサインです。違和感を無視せず、行動を変える勇気を持ってください。

(3) 正しい情報を集め、複数の大人を頼ること

災害や事件の時には、デマやフェイク情報が広がることがあります。むやみにSNSなどを信じるのではなく、先生や保護者、警察など信頼できる大人や、公式な情報を確認してください。そして、一人で抱え込まず、必ず相談してください。大きくなる前に、気づいた時に、相談してください。

皆さんには、これからの人生という無限の可能性があります。その未来は、一瞬の油断や、たった一度の「まあ、いいか」で大きく変わってしまうことがあります。だからこそ、今日から身につけてほしいのは、「ほんの少し先を予測する力」です。「相手が傷つくかもしれない。」「危険があるかもしれない。」「これをしたら、どうなるか(どんなことが起こり得るか)」そんな小さな予測の積み重ねが、自分の命を守り、友達を守り、皆さんの輝く未来を守ることに繋がります。3週間後の夏休みを前に、一人一人が「予測する力」を意識し、安全で充実した毎日を送ってくれることを願っています。

※危機回避能力や先見性にも通じます。変化の激しいこれからの時代を見通す力を身につけましょう。

